

合格体験記

東海大学 健康科学部 看護学科 3年次編入試験合格

内野 直子

私は約10年間看護師として病院勤務してきました。長年、外科病棟（消化器科、乳腺外科）に勤務し、癌で手術を受けた方、術後の抗がん剤治療の方、終末期の方など沢山の患者さんを担当してきました。

終末期で日々悪化していく状態の患者さんの看護を担当していると辛く、現役の看護師でありながら自分の無力を心底思い知らされました。

「なにかしてあげられないものか」と苦悩の日々でした。私より若い方とか同世代の方の終末期の患者さんには、なおさら心が痛みました。実は看護学校時代に保健医療に関する授業もあり、疾病の早期治療や、早期予防、地域の健康管理、増進の啓蒙などがいかに重要であることを

学んでいましたので、看護学校卒業後、これらの仕事をする保健師になりたいと思い、看護師として働きながら勉強をはじめていました。

卒業後すぐに結婚したので、家事、仕事、勉強を並行してやっていました。

勉強と言っても自己学習なので、教科書を引っ張り出して勉強しました。働きながら勉強、家事をすることは思った以上に大変でした。結局、保健師学校の受検では結果が出せず、二回チャレンジしましたが、失敗し苦い思いをしました。

昨年末（H25 年末）に埼玉県のある看護系予備校の先生とお会いし、保健師になりたいとお伝えしたところ、「大学の看護学部卒であれば保健師の資格が得られるので、4年制大学の看護学部への編入を勧めたい。今の看護師は学歴社会になってきている。看護系大学が一気に増えたこと。ウチの予備校から国立大学に編入した学

生も沢山いることから、100パーセント大丈夫、合格させてあげる」と言われH26年1月から看護学、英語、小論文の勉強を毎週日曜日に小田原から埼玉県まで通学し、勉強を始めました。英語はかなり苦戦し、授業の速さにもついていけなくなってしまう、自宅近くでもっと丁寧に分かり易く教えてもらいたいと思い、志学院ABC個別教室の入塾のための面接を申し込みました。

面接では保健師を目指していること。仕事環境や家庭環境の状態をはじめ看護系予備校(埼玉県)に年初めから半年近くも通学しているが、英語に実力が付かなくて不安なことなどを話しました。志学院の先生は私の話を親身になって聞いてくださいました。志学院ではこういう実情の中で、今後どのようなスケジュールを立て、どのように勉強していくのが良いかなどの指針を与えてくださいました。私は今まで間違った

勉強法で努力していたことに気づかされました。入塾後すぐH26年6月から英語を教えて頂きました。英語の基礎も無かった私は、中学英語の問題集から始めました。時間のあるときや通勤時は単語一つでも多く覚えるようにしました。英語を教えて頂いた佐藤先生の講義は非常に分かり易く、もっと早く志学院に来て佐藤先生に出会っていれば良かったと後悔しましたが、まさか私がこんな短期間で看護大学の編入試験に合格するとは思っていませんでした。結婚していることもあり、通学便利な東海大学しか受験する予定がなかったのも、第一希望で、東海大学健康科学部看護学科の合格は、本当にうれしかったです。年齢も(30代半ば)自分では気にしていましたが、やる気があれば、社会人でも、働きながらでも、合格することは夢ではなく現実にする事が出来ます。

私は何度も何度も諦めかけ、そのたびに弱音を

吐き、勉強をやめたほうが楽だと考えてしまうことが何度も何度もありました。しかし、自分で夢を諦めたらそこで終わってしまい、後悔します。英語の佐藤先生、いろいろな質問に答えて下さった諸先生方や塾長に心から感謝しています。将来は大学院まで進み保健学、健康支援学を学び地域社会で暮らす人の健康を支援する保健学のさらなる勉強や、看護大学の教員になり看護学、保健学を学ぶ生徒の育成に携わりたいと考えています。今から学生として健康科学部で学ぶことを楽しみに、仕事は東海大学医学部付属病院で看護師として頑張りたいと思います。

英語の佐藤先生と精神的に支えて下さった志学院。本当にありがとうございました。